

平成24年度 ほくぎん若手研究者助成金 研究実績報告書

氏名	所属・職名	助成金額
両角 良子	経済学部・大学院経済学研究科 准教授	850,000 円
研究課題名	障害児のいる世帯の経済的負担と金銭的支援に関する実証研究	
研究の概要	<p>[研究開始当初の背景, 研究の目的, 研究の方法等について記入]</p> <p>障害者とその家族の多くは 2 つの障害—心身機能の障害(インペアメント)とそれによってもたらされる社会的障壁(ディスアビリティ)—に直面している。特に人生の早い時期から障害とともに生きる場合, 障害からの影響もまた中長期的となることが考えられる。本研究の目的は, 特に障害児とその家族に焦点を当て, 世帯が直面する経済問題や社会的障壁の存在を明らかにすることである。研究の方法としては, 『特別支援学校の幼児・児童・生徒の経済調査』(独自調査)の個票データを使用し, 定量的に分析する。</p>	
研究の成果	<p>[研究成果について具体的に記入]</p> <p>分析の結果, 官公庁が実施する既存の大規模な統計調査では直接分析することができず, また先行研究で実施された統計調査でも明確に議論されることが少なかった部分について, 重要なエビデンスが観察された。特に, ①合理的配慮の整った一般企業が少ないために, 子どもの進路として福祉的就労を考える保護者や, ②子どもの介助などで仕事をやめた保護者, ③子どもへの福祉サービス・支援サービス・医療サービスの自己負担額を重いと感じている保護者が多いことが, 調査データからわかった。また, 子どもを養育する上で, ハード面やソフト面で支えになる人が周囲にいない保護者の存在も浮き彫りとなった。</p>	
研究成果発表状況	<p>[雑誌論文, 学会発表, 図書, 新聞掲載, 研究に関連して作成したWebページ, 産業財産権(特許権等)の出願・取得状況について記入]</p> <p>本研究課題の成果は, 報告書・雑誌・学会等で発表していく。</p> <p>雑誌論文(本研究課題と関連し, 本研究課題の分析に影響を与えた論文)</p> <p>Yuko Kodama, <u>Ryoko Morozumi</u>, Tomoko Matsumura, Yukiko Kishi, Naoko Murashige, Yuji Tanaka, Morihito Takita, Nobuyo Hatanaka, Eiji Kusumi, Masahiro Kami, and Akihiko Matsui (2012) "Increased Financial Burden among Patients with Chronic Myelogenous Leukaemia Receiving Imatinib in Japan: A Retrospective Survey," <i>BMC Cancer</i>, Vol.12, No.152.</p> <p>鈴木亘・湯田道生・岩本康志・両角良子「レセプトデータを用いた医療費・介護費の分布特性に関する分析」, 『医療経済研究』(医療経済研究機構)(2013年出版予定)</p> <p>学会発表(本研究課題と関連し, 本研究課題の分析に影響を与えた論文)</p> <p><u>Ryoko Morozumi</u>, Yuko Kodama, Masahiro Kami, and Akihiko Matsui (2012) "The Empirical Analysis of Employment for High-cost Chronic Patients: The Case of Chronic Myelogenous Leukaemia Patients," 日本経済学会, 於北海道大学</p>	

	区分	執行額(円)	備考
経費の執行 状況	物品	297,001 円	文具・英文校正・マクロデータなど
	旅費	386,670 円	研究打ち合わせ・資料収集など
	謝金	21,600 円	研究資料の整理
	書籍・複写(学内)	144,649 円	和書・洋書・文献複写(学内)
	複写(学外)	80 円	文献複写(学外)